



子育て相談

わかあゆ子育て支援センター

(わかあゆ子育て保育ステーション内)

電話相談も受け付けています。

☎ 47-2107

わかあゆ子育て支援センター <http://www.sun-hagiwara.jp>

2020 7月

梅雨が明けると暑さも日に日に増して、いよいよ夏がやってきます。夏に増えやすい感染症（夏風邪）・皮膚トラブルは、小さい子どもほど悪化しやすいことから、早めに対処できるといいですね。それぞれの特徴を載せてみました参考にしてください。夏ならではの遊びを楽しみ元気に過ごしましょう。

夏の3大感染症&皮膚トラブル

<3大感染症>

① ヘルパンギーナ

●ヘルプ（水泡）とアンギーナ（潰瘍）を組み合わせた病名
喉の奥に水泡や潰瘍ができる。また、39℃を超える高い熱が数日続く。熱が突然高くなるため、熱性けいれんの引き金になるおそれがある。まれに無菌性髄膜炎を併発することがある。

② 咽頭結膜熱（プール熱）

●咽頭（喉）結膜（目）に炎症が起こり、目が充血して目やにが増え39℃ほどの高い熱がでる。しかも、熱が出る期間が4～6日と長いので、脱水症状には注意が必要。

目の症状「目が赤い」「涙目になっている」気づきやすいサインです。

③ 手足口病

●名のとおり、手のひら・足の裏・口の中に赤みを帯びた発疹ができる。熱はあまり高くなり出ないこともある。原因となるウイルスのタイプによっては発疹や水泡が全身に出て水ぼうそうと紛らわしいケースや爪がはがれるなど症状が重くなる場合がある。

<3大皮膚トラブル>

① あせも（汗疹）

●汗を分泌する汗腺が詰まって炎症を起こす。汗をかきやすい部位に細かな赤い発疹ができかゆみを伴う。かき壊しによる炎症を起こしたり、とびひの原因となったりする。かいた汗をすぐに取り除いてあげる。水あそびやシャワーをすると良い。できないときは、濡れたタオルでこまめに汗を拭き取って、汗ばんだ服は着替えましょう。



② 虫刺され

●蚊は体温や二酸化炭素に引き寄せられるといわれています。新陳代謝の活発な乳幼児ほど刺されやすい。かき壊した痕に細菌が感染し、化のうして「とびひ」になることがある。また、0～1歳児は刺された痕が強く腫れがちです。蚊の多い場所や時間帯を避け、肌がデリケートな子は、薄手の長袖をはおらせる、長ズボンにするなど肌の露出を少なくしましょう。

② とびひ（伝染性膿痂疹）

●擦り傷や虫刺され、あせも、発疹などから細菌が入り水ぶくれができる。そこをかいた手で別な所にふれると“飛び火”するように水ぶくれがうつる。とびひが、最初にできることが多いのが鼻の下です。強いかゆみがあるため、あつという間に広がってしまいます。早めの対応をしましょう。

手作りおもちゃ(ゆっくり動くポコポコボトル)

小さいサイズのペットボトルに入れた液体とビーズのゆっくりとした動きが視線をひきつけます。

ポコポコという音も楽しく、目にも耳にも涼し気なおもちゃです。作ってみませんか

<持ち物> 7月6日(月)～

・小さいペットボトル 2本か500mlのペットボトル 1本

にこにこのうえんだより

さつま芋は根がつき葉っぱも大きくなって生長しています。すいかの方は調子があまりよくないです。水をたっぷりとやり見守っていきます。観察に来てみてください。

